

会議等名	平成 26 年 第 6 回海老名市外部評価委員会
日 時	平成 26 年 11 月 26 日 (水) 14 : 00 ~ 16 : 30
場 所	海老名市役所 3 階 政策審議室
出席者	出席者：大治委員長、城向副委員長、市川副委員長、阿部委員、 霜田委員、諏訪委員、山田委員、大島委員、菅生委員、 (以上 9 名出席) 欠席者：青木委員、高橋委員、長谷川委員 海老名市：伊藤企画財政課長、告原課長補佐兼政策経営係長、 石田主査、西尾

1 開 会

伊藤 企画財政課長

2 委員長あいさつ

本日は、来年度の外部評価の実施方法に関し、今年度作成した外部評価結果報告書に掲載した外部評価委員会からの意見や、その後に提出された意見について議論する場として設定された。委員の皆様から自由に意見を出していただき、活発な議論の場となればと思うので、よろしくお願ひしたい。

3 議 題 【議事進行：大治委員長】

(1) 次年度の外部評価のあり方の検討について

本題に対して、外部評価結果報告書に掲載された意見及びその後に提出された意見について、事務局より説明を行った。

<検討結果概要>

1. 新たな評価方法の検討

3. 実施方法の工夫

⇒次年度も今年度同様“事業評価＋施策評価”を実施する。

(実施方法についても今年度と同様に実施する。)

2. 施策評価について

⇒内部評価を実施した職員（行財政改革推進委員；次長）と外部評価委員が評価理由について議論できる場を設けるよう事務局にて調整を行う。

⇒施策評価調書の書式を事務局にて見直し、次回の委員会で案として提示する。

4. 調書の改変について

⇒調書の大幅な改変はせず、事務局にて職員を対象とした説明会を実施することで職員の意識を向上させることに力を入れる。

7. スケジュール（担当部課評価、内部評価、外部評価、評価後の考え方の時点）
について

⇒事業評価の調書に一部修正（“次年度計画への対応など”の欄に当該年度の検討及び実施状況を記載する欄を追加）を加える。

<主な質疑応答や意見>

1. 新たな評価方法の検討

【委員】 新たな手法として提案されている、“案件を絞り込み、より深い評価方法”を実施する場合、何を基準に評価対象事業を絞り込むのか。

“「事業の目的・進捗具合・問題点・今後の対応」を明確にできている部署を先駆けに”とあるが、本来、全ての事業について明確にできていないのではないのではないか。

市民のニーズや公共性から優先順位を決めて選ぶことは良いかもしれない。

【委員】 “評価を通じて得た識見をもとに建設的な提案を行う”ことを提案されているが、事務局の考え方として、“外部評価の枠を超える”とされている。“外部評価の枠”とはどこまでなのか。どこまで踏み込んでいいのか。

【事務局】 外部評価委員会は条例で設置されている市の附属機関であり、条例の中で“市が実施する行政評価について、評価の客観性及び信頼性を確保するため”に設置されていることが謳われている。ご提案のあった手法は、提案することが目的となってしまうように感じることから、外部評価の枠を超えると考えている。

また、外部評価委員からは市民目線で気付いた点についてはご意見として伺っている。意見を付して頂くことは可能であり、現状の方法でよいのではないかと考えている。

【委員長】 事業を理解しないことには評価はできない。外部評価委員として“判断する目”を持つことも必要であり、その上で、市が評価したものの妥当性が判断できる。そのため、場合によっては提案がコメントに入ることも有り得る。自由に遠慮なく提案していいと考えている。

2. 施策評価について

【委員】 平成 21 年度に施策評価を実施したが、その後続かなかったことに目を向けた方がいいのではないかと。施策評価の効果があつたかわからなかったため、平成 22 年度以降は事業評価に戻ったのかと思う。今回私のグルー

プは主に道路事業を評価したが、道路事業は施策を意識して取り組んではないように感じたため、施策評価は必要ないように感じた。

今年度については、初めての委員が多く、何もわからない中で始めたため、施策評価の実施は早かったのではないかと感じた。今年度評価を実施したことにより、理解を深めていただくことができたため、来年度実施するのであれば効果も上がるかと思う。

施策評価を実施していくと、“海老名市はこうあるべき”という本来、議員が議論すべき所まで踏み入ってしまいそうになる。外部評価委員の仕事としては、行政が評価したことを市民目線でしっかり評価することである。

【委員】 この施策であればこのような事業は実施しないだろうと思うような事業もあった。施策評価と事業評価は別物である。両方実施した方がよい。

【委員】 施策評価を実施することについては画期的な取り組みだったが、今年度は初めての委員が多く、事業の内容を理解することで手いっぱいだったために、施策評価はおまけのようになってしまったように感じる。まだ実施の可否の判断はできないと思うので、来年度も今年度と同様に実施し、実施の可否の判断や改善点等が見えてくるまで継続した方が良いのではないか。

【委員】 施策評価は実施すべきだと思う。内部評価を実施する次長とヒアリングできるよう調整していただけることは有難く、手厚い対応である。

【委員】 今回は、事業評価を主体的にせざるを得なかった。事業の内容をまず理解することに労力を費やした。

内部評価ではA評価だったが、外部評価でC評価となった場合、その差は何なのか、大きな差があるのか等がわからなかった。内部評価を実施した人との意見交換ができれば理解の深まった評価ができるのではないかと思う。

【委員】 ヒアリングを実施すれば、施策に対する市の考えも聞くことができるため、ヒアリングは必要だと思う。

【委員】 職員は、施策を意識しながら業務を遂行してはいないのではないかと。誰がどれ程意識して取り組んでいるのか。

【事務局】 部署によって濃淡はあるが、必ず目的意識を持って事業を推進しているため、全く意識せず取り組んでいることはない。

【事務局】 施策の達成を目指して事業を実施しているため、その効果等を所管は説明できなければならない。

ただ、複数の部に横断する施策については、次長が対応しなければならないと思う。

【委員】 施策を構成している事業が、現状の事業で十分なのか足りないのか、他の施策に移行すべきものが有るのか無いのか、の判断があつて施策の評価になると考える。その上で施策の達成に向けて事業が順調に進捗しているのかの判断があるかと思う。平成 21 年度に全施策の評価を実施したことがあり、詳しいヒアリングは行わず実施したが、調書の書式は適当だったかと思う。

【委員】 A、B、Cでの評価が良かったのかは疑問である。言葉での評価の方が的確に感じる。A、B、Cでの評価では何がよくて何が悪いのかわからない。

【委員】 何をどう評価していいか、どこまで指摘等をしていいものなのか、事業の内容もわからない状況から始めた。今回、“A、B、C”の判断項目だったが、他の委員が“C”の判断をし、自分は“A”だと思つても、明解な理由が言えないため、意見として出すことができなかつた。

【委員】 A、B、Cでの評価の方が市民にはわかりやすいのではないか。

【委員】 A、B、Cの判断基準はどうするのか。
A、B、C評価では主観が入りやすくなるのではないか。

【委員】 ある程度主観が入ってしまうことは仕方がないのではないか。

【委員】 判断項目をいくつか設定し、○が付いた数でA、B、Cを付ける方法もある。

【事務局】 事務局にて平成 21 年度に実施した際の書式も踏まえて判断基準や様式について検討し、案を作ってみる。

【委員】 この行政評価の取り組み以外に各所管が事業に対し振り返る機会はあるのか。

【事務局】 例えば、イベントを実施した際には実施後に結果報告をまとめるが、その中で課題もまとめることになる。その課題を次年度以降改善するよう進めていく。しかしながら、通常業務では行政評価以外において振り返る機会は少ないと思う。次年度の実施計画の策定と予算について 10 月頃から同時に進めていくが、予算要求の際には、前年度（今年度）の取り組みも振り返った上で要求することを担当部課には投げ掛けている。

【委員】 まず、施策の説明を受け、その後事業の説明を聞くと、どうリンクしているか整理しやすく、理解しやすいように感じる。進める順序は考えてほしい。

【委員】 施策評価は予算要求前までに終わらせなければならないわけではないため、事業評価が一段落する秋から実施することや、次期総合計画策定までに間に合わせればよいのではないか。

3. 実施方法の工夫

【委員】 今年度の進め方は事務局が主導し過ぎたように感じる。平成 18～19 年度辺りに実施した際には、何を評価するかも外部評価委員会で決めた。外部評価委員会の主体性も必要である。

【委員】 ヒアリングでは様々な質問ができ、理解を深めることができた。ヒアリングをすることが重要と感じた。

【委員】 事前に質問事項を担当課へ提出することで無駄なくヒアリングを進めることができたため、よかったと思う。当日は事前に提出していた質問以外にも投げ掛けることができた。

【委員】 外部評価が始まった当初は、事務局がわからない内容のみ担当課へヒアリングする方式を取っていた。事前に質問を提示することにより担当課にも考える時間ができ、より外部評価の進め方が充実してきていると思う。今年度と同じ方法で良いと思う。

4. 調書の改変について

【事務局】 実施計画・行政評価調書については改善を重ねているが、改善した効果が見受けられないため、今年度は一步踏み込んで職員を対象にした説明会の実施を考えている。記載する人の気持ち次第で改善が図れると思う。しかしながら、ここ数年で少しずつではあるが、改善しているように感じている。

【委員】 “どうしてこのような予算になったのか” の視点で評価したことがない。予算付けについては是か非か評価してみたい。調書に記載することはできないか。

予算は事業に対して付けられていると思うが、施策と予算の関係が合っているのか否かを評価することも重要ではないか。

【事務局】 小さな予算で効果が出せる施策や大きな予算でなければ効果が出せない施策もあるため、予算で図るには難しいのではないかと。

【委員】 予算が付かなかつたために事業が実施できなかつたとの説明をされた課があつた。そのため、予算を付ける時点での評価も必要ではないかと感じた。

【事務局】 実際に海老名市の一般会計予算は400億円程度だが、1割以上足りない状況にある。しかしながら、各部へは包括予算として予算を配分し、各部の中で優先順位を付けて取り組んでいる。予算が付かなかつたから事業を実施できなかつたという説明では説明責任が果たせていないと思う。職員に対しては、しっかりと意識付けしていきたい。

5. 事業評価に対する判断項目について

【委員】 意見は、判断項目を1つ追加する必要があるとのことだが、判断項目の細分化はきりが無い。現状の判断項目でわりきって判断し、文章の中で表現するしかないのではないかと。

【委員】 “現状継続”の判断をされても、次年度見直しをせずに実施する事業などないのではないかと。

6. 長期継続事業の評価について

【委員】 長期的に同額程度の予算が付き続ける事業であっても、そのままの内容で単純に実施し続けられればよいというわけではない。

【事務局】 市長からも常に言われているが、継続事業であっても、市民ニーズに合っているのか、対象者が時代に合っているのか等を検証する必要がある。

【委員】 団体に対する補助を出しているような事業で何年も変わらずに取り組んでいるような事業があつた。

【委員】 道路事業のように、長期のスパンで予算が付くと、見直しも難しいのかもしれない。

(2) その他

平成 27 年 第 1 回海老名市外部評価委員会の日程について

2月10日(火)、20日(金)、24日(火)を候補日とし、欠席者の都合を確認した上で日程及び場所を確定する。

4 閉 会

伊藤 企画財政課長

以 上